

# ほ み さと 穂見の里

北杜市立長坂中学校  
学校だより



<文責>

校長 板山俊彦

【令和6年5月7日】

中緑（なかみどり）、翠色（すいしょく）、青柳（あおやぎ）。これらは、日本の伝統色の中で緑系の色を表す言葉です。資料によると、日本の伝統色は「緑系」だけでも、80色以上あるそうです。本校の白藤ホールより視線を北側にやると、まさに様々な緑をまとったハケ岳を目にすることができます。今の季節だからこそ、美しい光景です。

本年度がスタートして1か月が過ぎました。PTA 総会の際にも説明させていただきましたが、本校は昨年度までとは一部異なる組織（体制）となりました。生徒にとって、より望ましい教育活動を実現するための対応だご理解ください。

## 「サポートルーム ほくと」について

本年度より「サポートルーム ほくと」が本校に設置されました。このサポートルームでは通級による指導が行われます。通級による指導とは、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服すると共に、通常の学級における授業においても、その指導の効果が発揮されることを目指します。

指導の内容は以下の6つに区分されます。

- 健康の保持
- 心理的な安定
- 人間関係の形成
- 環境の把握
- 身体の動き
- コミュニケーション



「サポートルーム ほくと」には3名の職員が配置され、本校を拠点として、北杜市内の中学校で指導を行います。本件に関してご質問等ございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

## 本校の多忙化改善(働き方改革)について

昨年度に引き続き、教職員の多忙化改善（働き方改革）の状況を随時お知らせします。

【長坂中学校における超過勤務時間の状況について】（対象職員22名）

	<令和5年度4月の状況>	<令和6年度4月の状況>
45 時間以上 60 時間未満	3 人	2 人
60 時間以上 80 時間未満	5 人	8 人
80 時間以上 100 時間未満	5 人	2 人
100 時間以上	2 人	0 人

昨年度よりも超過勤務時間並びに超過した職員数も改善傾向がみられます。

<多忙化改善に向けた本校としての取り組み内容の一部>

- 入学式の式場準備の簡素化（シートを敷かない）
- 各種通信等の発行回数を検討（SDGs の視点） など

# 「ステップルーム」について

長坂中学校では、令和6年5月から「ステップルーム」を開設しました。

「ステップルーム」は教室に入りにくい生徒に、学校における居場所を保障し、社会的自立に向けた支援の場となることを目的としており、本年度より北杜市内のすべての小中学校に同様の部屋が設置されました。

## 1. 長坂中ステップルームが大切にしていること

◎生徒の「ありのままの姿」に寄り添います。

…生徒の「ありのままの姿」に寄り添い、生徒自身が立てた「目標」に対する支援を行います。学級への復帰を最終目標または利用の前提とはしません。

◎生徒の「自己決定」を大切にします。

…毎日の過ごし方は、登校後に生徒一人ひとりが決めます。それぞれのリズムで1日を過ごし、最後に振り返りの時間を設けることで、個々の成長を支えます。

◎「生きる力」を育むことを目指します。

…生徒の自主的な活動を通して、相談する力や苦手な場面でSOSを出せる力、自分の強みを知り生かす力など生涯にわたって必要な力を育むことを目指します。

## 2. 支援体制

ステップルーム担当教員2名、支援員2名

※必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携します。

## 3. ステップルームでの過ごし方

◎基本的には自習形式で自主学習（5教科以外の学習も含む）を行います。

- ・タブレット端末、ワークシート、自宅にある学習教材などを使って自習をします。
- ・「何をしてもよいかわからない」という生徒に対しては、支援員がサポートします。

## 4. ステップルームを利用してみたいと思ったら

①学校に利用したい旨を連絡する。

- ・ステップルーム支援員、担任、保健室の先生など、誰に伝えて頂いても大丈夫です。

②利用確認シートをもらい、記入して提出する。

- ・利用を希望する曜日や時刻を記入します。利用にあたって、不安なことや配慮してほしいことがあれば記入して下さい。

（例）他の生徒と会わないようにしたい、生徒玄関からの出入りはしたくないなど。

- ・前日までの利用申請だけでなく、当日の利用申請も可能です。

③予定した日時にステップルームに行く。

- ・ステップルームは、校舎2F 図書室の隣りにあります。

まだスタートしたばかりの取組であり、今後様々な課題が生じることが予想されます。その様な時には、ステップルームを利用する生徒と相談しながら改善を図っていかうと考えています。生徒を中心に据えて、家庭や地域と連携しながら、今後も生徒の成長を支えていきます。どうか、ご理解とご協力をお願いします。